

# 2年組 道徳学習指導案

場所 2年組教室  
授業者 遠藤 ゆかり

## 1. 主題構成表

主題名 友だちへの 思いやり

資料名 「ぐみの木と小とり」

出典

「2年生のどうとく」 文溪堂

<p><b>内容項目</b> 2 - (2) 親切 身近にいる幼い人や高齢者に温かい心で接し、親切にする。</p>	<p><b>価値の分析</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・自分のまわりに、困っている人や弱い立場にいる人がいたら、その人の身になって考え行動しようとする心情を育てることは、よりよい人との関わりを築きあげていくうえでとても大切なことである。</li><li>・相手のつらさや痛みを自分のこととして感じるができるようになったとき、相手のために行動することができると思う。また、その行動によって、相手が喜んでくれることは自分の喜びにもつながる。</li><li>・相手に親切にすることは、まだまだ自分本意に行動してしまう低学年には意識しにくいことであるかもしれない。だからこそじっくり立ち止まって、相手の立場になって考え、その人のために何かをしてあげたいという気持ちを育てていきたいと考える。</li></ul>	<p><b>資料の分析</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ぐみの木から、りすさんが病気で寝ていることを聞き、小鳥はりすさんにごみの実を届ける。ここでは、ぐみの木から聞いて心配し、りすさんの様子を見に行く小鳥の優しさを感じ取ることができる。</li><li>・届けたぐみを食べたりすさんが少し元気になった様子から、役に立てた喜びやさらなる意欲を感じ取ることができる。</li><li>・小鳥は、次の日もぐみを届けようとしたが、ひどい嵐となってしまった。嵐を目の前にして、恐怖心とりすさんを心配することとに、小鳥が迷っている気持ちを引き出すことができる。</li><li>・早くりすさんに元気になってほしいという思いから、迷いを振り切り、嵐の中を飛び立っていく小鳥の心の強さと温かさに感動することができる。</li></ul>
---	---	---

### ねらい

りすさんを思いやり、迷いながらも嵐の中へ飛び立った小鳥の気持ちを考えることを通して、困っている友達やまわりの人に親切にしようとする気持ちを育てる。

### 展開の構想

- ・病気のりすさんを見て困っていることを知り、りすさんのために何かをしてあげたいという小鳥の気持ちに気付かせる。
- ・りすさんにぐみを届けたいけれど、嵐の中を飛んでいくのも怖いという小鳥の心情に迫らせる。
- ・迷いながらも、りすさんを思いやり、ぐみを届けようとする小鳥の心の強さ、温かさから、友達に親切にするこのすばらしさに気付かせる。
- ・自分の生活を振り返り、相手を思いやった親切の気持ちよさがわかる。

### 基本発問(中心発問)

病気で寝ているりすさんにぐみを届けたとき、小鳥はどんなことを思ったでしょう。

嵐がやむのを待つ間、小鳥はどんなことを考えていたでしょう。

嵐の中を飛んでりすさんのところに向かったとき、小鳥はどんなことを思っていたでしょう。

## 2. 授業の展開

段階	学習活動（基本発問と予想される児童の反応）	支 援 ・ 留 意 点
つ か む	<p>(1) 友達が困っている様子を見た経験を発表する。 困っている友達を見たことがありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グラウンドで転んで足をけがして泣いていた。</li> <li>・赤白帽子がどこかへいってしまってこまっていた。</li> <li>・けんかをしてしょんぼりしていた。</li> </ul>	<p>困っている友達を見たときの気持ちを想起させねらいとする価値への方向付けをする。</p>
深 め る	<p>(2) 「ぐみの木と小とり」の範読を聞き、小鳥の心情について話し合う。</p> <p>病気で寝ているりすさんにぐみの実を届けたとき、小鳥はどんなことを思ったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・病気だなんてかわいそうだな。</li> <li>・ぐみの実を食べてはやく元気になってね。</li> <li>・ぐみのみを持ってきてよかった。</li> <li>・明日も持ってきてあげよう。</li> </ul> <p>嵐がやむのを待つ間、小鳥はどんなことを考えていたでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・こんなに強い風の中、怖くてりすさんのところまで飛んでいけないよ。</li> <li>・今日はお見舞いはやめておこうかな。</li> <li>・はやく嵐がやまないかなあ。</li> <li>・病気のりすさんが心配だから行こう。</li> <li>・りすさんはきっと待っているはずだ。</li> </ul> <p>嵐の中を飛んでりすさんのところに向かったとき、小鳥はどんなことを思っていたでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・嵐なんか怖くないぞ、りすさんのためにがんばろう。</li> <li>・きつとりすさんはおなかをすかせているはずだ、はやくいかなくちゃ。</li> <li>・絶対りすさんにぐみの実を届けるぞ、待っててね。</li> </ul>	<p>児童の反応をとらえながら判読する。 (着目児の表情) 掲示資料を見ながらあらすじを確認する。 病気のりすさんを見たときの小鳥の気持ちに共感させるとともに、そんなりすさんのためにもっと役に立ちたいという気持ちを引き出させる。</p> <p>りすさんのためにぐみを届けたいという気持ちと、嵐への恐怖心から行くのはよそうかという気持ちとに迷っていることに気付かせる。 対立する意見を板書で示し、自分の考えを位置づける。</p> <p>ペープサートによる役割演技することを通して小鳥の気持ちにより迫らせる。</p> <p>嵐という外的条件を乗り越えて、りすさんのところへ飛んでいった小鳥の気持ちをとらえさせる</p>
見 つ め る	<p>(3) 今までに親切にしたことや、親切にしてもらった経験について発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・うさぎ当番さんが、うさぎが入らなくて困っていたので手伝ってあげた。</li> <li>・体操服を体育館に忘れたいたので、届けてあげた。</li> <li>・かさを持っていなくて困っていたら、友達がかさにいれてくれたのでうれしかった。</li> </ul> <p>(4) 教師の説話を聞く。</p>	<p>学校での生活だけでなく、友達と遊んでいたときなども思い出させながら自分の生活を振り返らせる。</p> <p>着目児が思いやりの心で仲間と関わっていた姿を広めていく。</p> <p>親切にもらった時のうれしかった気持ちも十分取り上げる。</p>